

こんにちは 日本共産党 綾部市議会議員

このニュースは私費で発行しています

大島町梶長16-12
FAX: 42-9558
携帯: 090 2285 8627
メール: kumiko@xi.bo.jp
ブログ・フェイスブック:
つきがしら久美子で検索を
日本共産党綾部市議会議員団ホームページ:
<http://www.jcp-ayabe.jp/>

つきがしら 久美子です

私の議会質問

一緒に配布する
議員団ニュース
とおわせてお読
み下さい

学校の避難所機能を高める施策を求める
体育館・トイレ等の環境整備
スムーズな避難所運営のために
地域医療構想と綾部市の見直し
入院可能なベット数の確保と医師不足
の解決を
住民参加の地域包括ケアシステムを

避難所としての学校機能を求める すべての小中学校体育館の調査から

避難所となる学校体育館の中で、特に中筋小学校は2階が体育館となつています。

2013年(H25)の台風18号で避難した時、階段昇降があることに加え、近くに洋式トイレがなく不便であったことから議会でも取り上げ、「避難所指定を想定して整備を進める」という答弁をうけました。

ところが、同学校のトイレ改築計画があるにもかかわらず、体育館横のトイレ改修は計画にありませんでした。

そこで、避難所となる学校体育館周辺のトイレ調査を実施

私は2日間に分けて、

市内すべての学校体育館とトイレを調査しました。(対応していた校長先生はじめ職員の方に感謝いたします)

調査の結果は、トイレが併設されている体育館は少ない。トイレは和式が主流で洋式トイレは1つ程度。

狭くて段差があり、車いすでは利用できない。

新築された上林小・中学校体育館はスロープ・洋式トイレ・太陽光発電・蓄電機能があり、避難所として整備されていた(土砂災害警戒区域のため使用不可の時もある)でした。

安心できる医療介護の充実策を

来年2018年(H30)は、団塊の世代が75歳になる2025年を見据えて、医療計画と介護保険計画が同時に改定される。

(医療・介護に、国のお金がかからないように改悪される)そのために医療保険料の引き上げや介護保険外しなど医療・介護が使いにくくなって

国は、入院を減らし在宅医療へ患者を押し込める考えだが、今後の高齢化率を考えると入院ベットは今より多く必要だ。

【質問】今後の病床数、在宅医療患者数をどのように予想しているのか。
【答弁】2025年の中丹医療圏の病床数は現状を確保。在宅患者数は1日当たり602

人増加見込みと推計している。

【質問】医療構想の基礎となるデータは2013年(H25)であり、すでに医療過疎の状況を基に出しており脆弱だ。さらに、入院を少なく見積もるといふ事は、医師数も増やす必要がないという事につながる。

国の方向を是正すること、綾部市の対策が必要だ。今でも往診が困難になっているが今後、綾

部市内の在宅医療の確保はできるのか。

【答弁】国の方向は在宅医療への移行だが、現状として往診もむずかしく、将来的に課題があることを認識している。医療・介護・予防等、連携しサービスを切れ目なく提供し支援する必要があると思つている。

ペースが必要。また学校には和室や保健室もあるので環境を考慮して利用できないか。
【答弁】福祉避難コーナーとして、間仕切り

や簡易型女性更衣室・授乳室の設置などで確保に努める。また個別の部屋も活用し、福祉避難所のような機能を持たせたい。



防災用物資が体育館横に備蓄してある学校

【質問】文部科学省も「学校のバリアフリー化は基本」と言っているように、障がいがある無しに関わらず誰もが利用できる学校施設とすることが重要だ。また、災害時にトイレ

トイレ確保は重要である。避難所機能の観点からトイレの整備を進めたい。
一般避難所内にも福祉スペースが必要
【質問】体育館など一般避難所に福祉避難ス



簡易の女子更衣室

総括質疑から

ここ20年間の医師数の推移と偏在について質問。

【市の答弁は】厚生労働省の医師届け出数に基づき以下の内容。

	平成5年	平成10年	平成20年	平成26年
綾部市のみ	61人	—	—	68人
中丹	410人	449人	429人	436人
丹後	165人	164人	161人	171人
南丹	158人	231人	241人	260人
京都・乙訓	5040人	5592人	6054人	6634人

【搞頭】

人口10万人当たり医療施設従事医師数（H26.12）を医療圏でみると（人）

中丹	丹後	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南
217.9	168.6	175.8	386.3	179.0	130.8

*全国平均 233.6人 京都府平均 307.9人（医師数は全国1位）

中丹医療圏（綾部・福知山・舞鶴）は全国平均よりも医師数は少なく、京都・乙訓医療圏と比較して大きな開きがある。京都・乙訓で助かる命が中丹では助からないという事があってはならない。

また、医師不足の原因は、国の政策で医師数を抑制（1982年～2007年）してきたことや、医療の高度化・専門化で1人の患者の病気を複数の医師が診るため、また高齢者の増加等も考えられます。

医師の養成と確保を求めました。

除雪機の修理等、維持管理に対する補助制度の創設を質問。

【市の答弁は】

除雪機の補助は、50万円を限度として補助対象経費の1/2以内で、除雪能力が幅800mm以上の機械、または農機具等に設置する除雪板の購入費。（更新の場合は5年以上経過）

申し訳ないが、機器の購入費であり、維持管理については認めていない。今年の大雪で、地域の皆様に市道の除雪等お世話になりお礼申し上げます。

【搞頭】

除雪と草刈は各地で困難が生じている。今後の施策を検討することを要望しました。



2月、上林の実家の雪かき

市外に通学する高校生を対象に、市の通学補助制度を創設すべきと質問。

【市の答弁は】

京都府の制度として、所得制限により、1ヶ月の通学費が2万2千円、または1万7千円を超えた場合に1/2の補助をする制度がある。また、福知山市の定期乗車券補助金は、1ヶ月7200円を超え、かつ2万2100円以下の金額で補助対象経費から7200円を引いた額の3/4が補助となっている。舞鶴市、宮津市は制度がない。

今後、近隣の状況をみながら研究したい。

【搞頭】

綾部市は、大学・専門学校・予備校生には鉄道利用の定期通学者補助があるが、高校生にはない。舞鶴市は育英資金制度の中に高校生の通学補助がある。

保護者負担軽減のため通学補助の検討を求めました。

介護予防を進めるために

【質問】介護の知識を持つことは、家族に対しても、また自分自身にも介護予防につながる。長野県米村には「下駄ばきヘルパー制度」があり、住民のパワーで安心して暮らせる村づくりを目指している。

「市民ヘルパー講座」を各地で開催し、多くの市民の方が学習できれば、町全体が介護予防・福祉の町として効果を発揮す

【答弁】介護の知識を持つことは、家族に対しても、また自分自身にも介護予防につながる。綾部市に「ヘルパー講座」の取り組みはない。介護予防や健康づくりに努めることは大切だ。

【質問】「生活介護支援サポーター」など養成している。講座実施は考えていないが、市民が介護に関する知識を深めることは重要だ。

【答弁】介護の知識を持つことは、家族に対しても、また自分自身にも介護予防につながる。綾部市に「ヘルパー講座」の取り組みはない。介護予防や健康づくりに努めることは大切だ。

写真は記事とは関係ありません

「生活介護支援サポーター」など養成している。講座実施は考えていないが、市民が介護に関する知識を深めることは重要だ。

*今後、入院もできず、往診してくれる医師もいないという事態になるのではないかと心配します。先を見通した対策が必要ではないでしょうか。

心を狙う共謀罪

ターゲットはあなた！

安倍首相あてに「プライバシーと表現の自由が制限される」と、国連からも書簡が届いています。

